

情報通信先進地域「奥能登」を目指す調査研究会

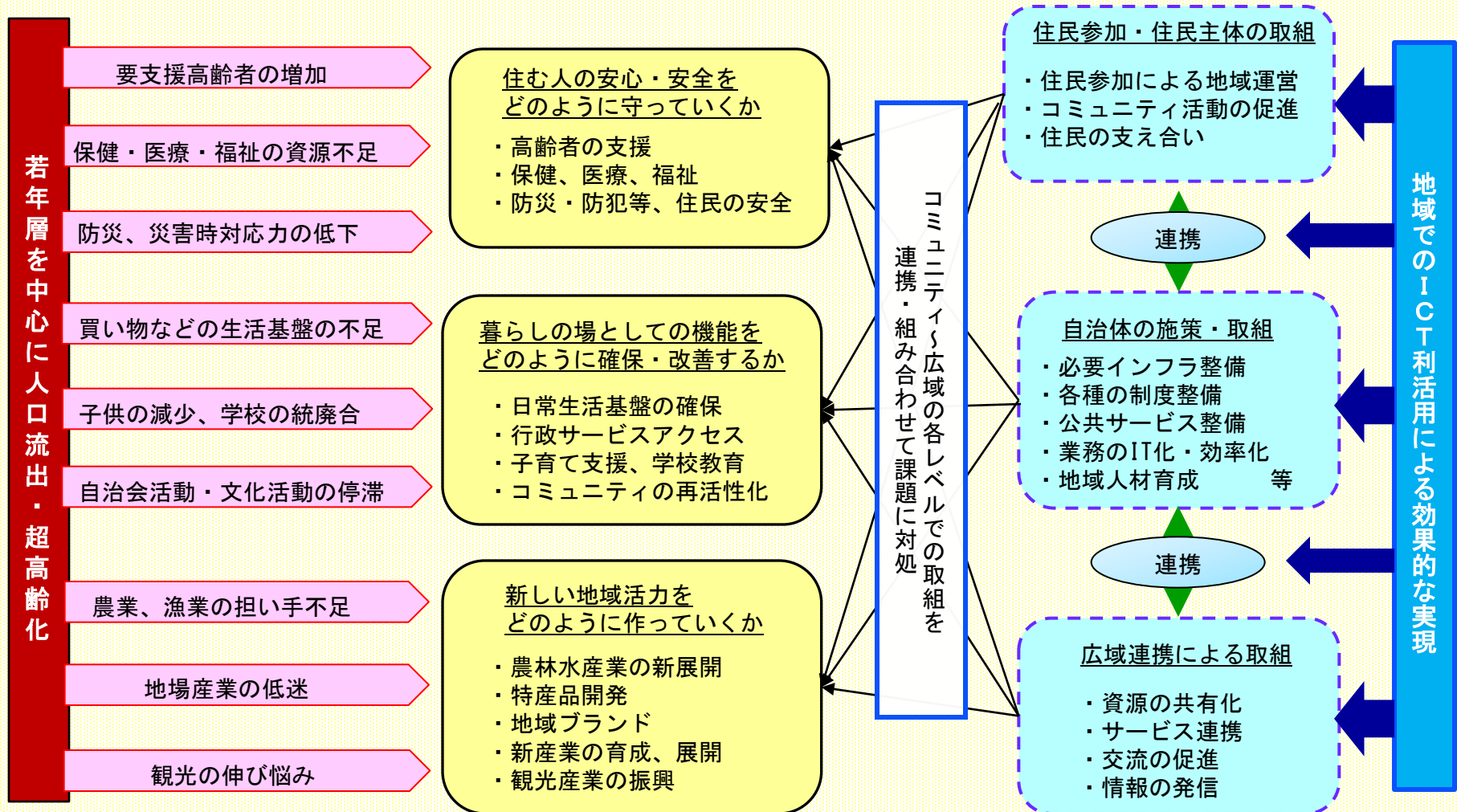
奥能登地域の社会的課題

2010年12月22日

アライド・ブレインズ株式会社

課題の全体像

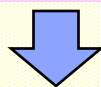
- 人口の減少、流出、高齢化が、地域社会の様々な機能に影響を及ぼしている。
- 地域社会の機能の確保、新しい地域活力の創造が奥能登にとっての大きな課題となっている。
- 住民のパワーを活かした地域運営、地域間の連携による課題解決等が取組の鍵になり、ICT（情報通信技術）の利活用はこれらを効果的に行う有力な手段になる。



課題 1 : 安心して暮らせる地域づくり

- 奥能登は、高齢化が特に進んでおり、高齢者の支援が重要な課題になっている。
- 一方、医師不足などが発生し、医療・介護等の確保面にも課題がある。
- 限られた資源で、効果的に必要なサービスを提供するしくみづくりが求められている。

高齢者人口の割合は4割前後で、さらに増加
能登半島地震による被害、意識の変化



医療・保健・介護サービスの確保

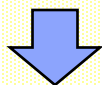
- ・ サービス需要の増大
- ・ 介護・医療従事者の確保困難
- ・ 山間部、限界集落への対応
- ・ 健康管理、介護予防の取組



地域で高齢者を支えるしくみづくり

- ・ 高齢者世帯、独居高齢者の増加
- ・ 高齢者の孤立防止、見守り
- ・ 社会参加、生きがいづくり

対面・訪問型のサービス
だけでは限界が発生

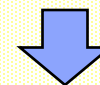


地域住民の安心・安全の確保

- ・ 大地震、大規模災害への備え
- ・ 高齢者や障害者の避難確保
- ・ 住民参加による防犯・防災活動



住民の参加・協力による
取組が重要に



課題解決に資するICT利活用の基本コンセプト

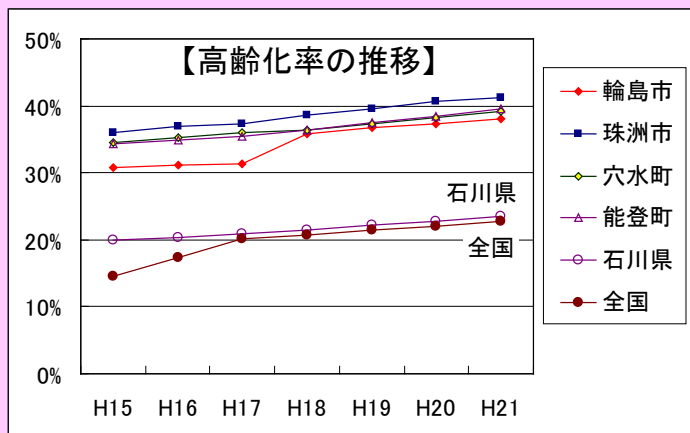
高齢者を含む地域の人々、様々なサービス提供者を幅広くつないで、効果的に必要なサービスや情報を提供できるようにする。
緊急の時に、危険を迅速に発見し、必要な情報を必要な人に確実に伝える。

1-1: 超高齢化を支える地域づくり

- いずれの市町も高齢化率が4割前後に達する、超高齢社会。
- 介護サービスの充実だけでなく、高齢者の健康、安全、暮らしを守る総合的な取組が必要になっている。

地域の課題の現状

- ◆ 各市町とも高齢化率は4割前後に達する
- ◆ 要介護、要支援高齢者が増加
- ◆ 高齢者世帯、独居高齢者が増加



(石川県の年齢別推計人口より)

地域の取組テーマ

- 住民参加による高齢者見守り
- 高齢者の健康維持、介護予防
- 介護サービス（在宅、施設）の充実
- 山間部等での介護サービス確保
- 保健、医療、介護の円滑な連携
- 高齢者の社会参加、生きがいつくり

望まれるICT利活用のイメージ（例）

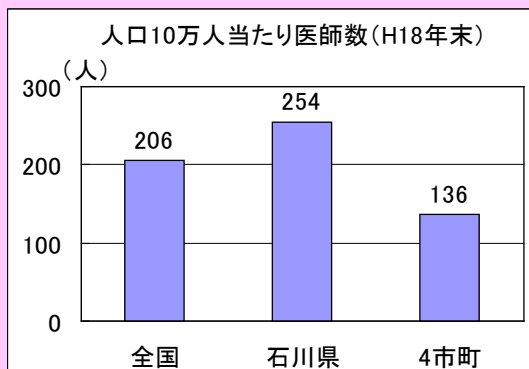
- 近隣住民やボランティアがテレビ電話で在宅高齢者とコミュニケーションし、見守りを行う。
- 高齢者が在宅で簡単に健康データを測定し、データは保健所等に自動的に送信される。
- 訪問介護のスタッフが、高齢者の様子、状況などを簡単に記録し、必要な関係者と情報を共有する。
- 高齢者が楽しく使える情報端末で、テレビ電話だけでなく様々なコンテンツやサービスを利用できる。

1-2: 医療・保健・福祉の確保と充実

- 医師・医療スタッフの不足が発生し、地域医療の維持・確保が課題になっている。
- 地域住民の健康維持・増進は、将来の医療ニーズ、医療費の増大抑制にもつながる重要テーマ。
- 障がい者が暮らしやすい、ノーマライゼーションの視点に立ったまちづくりが求められている。

地域の課題の現状

- ◆ 中核病院、診療所を問わず医師不足が発生
- ◆ 医師の高齢化も目立ち（開業医の平均年齢62.8歳、H16末）、医師の後継者不足も危惧
- ◆ 健診の受診率が低く、生活習慣病が増加
- ◆ 障害者の生活環境整備、社会参加が不十分



(能登北部保健福祉センター事業報告書ほかより)

地域の取組テーマ

- 中核病院と診療所等の連携強化
- 在宅医療、訪問看護サービスの充実
- 広域連携による専門医療の確保
- 健診受診率、予防接種実施率向上
- 街のバリアフリー化
- バリアフリーマップの整備

望まれるICT利活用のイメージ(例)

- 住民の健康情報を本人と保健・医療等で共有し、健康増進などに有効活用する。
- 誰もが作成に参加できる電子バリアフリーマップで障害者の外出に必要な情報を提供する。
- 病院と診療所を結び、電子カルテの情報を必要に応じて共有し、円滑な医療サービスを提供する。
- テレビ電話等による在宅遠隔医療、遠隔地の専門医療機関と結んだ遠隔医療により必要な医療を確保する。

1-3 : 地域住民の安心・安全の確保

- 能登半島地震のような大規模災害での安全確保、特に、高齢者・障害者の安全が重要な課題に。
- 防犯、事故防止についても高齢者の被害の防止が課題。
- 自治会等のコミュニティ機能の低下を効果的に補う手段、方法が求められる。

地域の課題の現状

- ◆ 高齢者の交通事故の増加
- ◆ 高齢者を狙った犯罪の増加
- ◆ 山間部における救急搬送体制の確保
- ◆ 高齢化や過疎による自治力の低下（消防団の機能維持が困難など）

	高齢夫婦 世帯割合	高齢単身 世帯割合	面積1km ² 当たり		
			高齢夫婦 世帯数	高齢単身 世帯数	一般世帯 数
輪島市	14.6%	11.9%	3.0	2.5	20.7
珠洲市	17.4%	14.3%	4.6	3.8	26.3
穴水町	16.3%	13.3%	3.3	2.7	20.3
能登町	16.2%	12.8%	4.5	3.6	27.9
石川県	8.9%	7.1%	9.0	7.1	101.1
全国	9.1%	7.9%	11.9	10.2	129.8

（平成17年国勢調査より）

地域の実践テーマ

- 高齢世帯・高齢独居者の緊急避難方策
- 高齢者の防災・防犯・安全意識の高揚
- 過疎地の防犯・監視体制の確保
- 住民参加と地域支え合いの防災対策
- 山間部における消防、救急機能の整備
- 災害時の広域連携、近隣市町同士の応援体制の整備
- 緊急時における情報伝達手段の確保

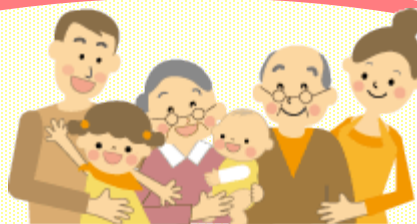
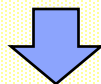
望まれるICT利活用のイメージ（例）

- 緊急時や災害発生時に、確実に・わかりやすく・簡単に、必要な情報をリアルタイムで住民に提供する。
- 防犯・防災対策カメラやセンサーのネットワークで情報収集し、危険を早期に発見・対処する。
- 子供やお年寄りの現在位置を把握できる見守りシステムにより、異常を早期に発見し対処する。
- 災害発生時における近隣市町等との情報関係を強化し、機動的な災害復旧を可能にする。

課題2 暮らしの場としての機能・魅力アップ

- 人口減少等により、住民の生活を支える機能に課題が発生している。
- 日常生活や子育てを問題なく、安心して行える環境の確保が求められる。
- コミュニティ活動等、人々の参加・交流による魅力的な地域づくりが今後のカギになる。

- ・ 鉄道、路線バスなど、地域内の公共交通の縮小
- ・ 子どもの数の減少、学校の統廃合



日常生活基盤の確保

- ・ 鉄道等に代わる生活の足の確保
- ・ 買い物や行政アクセス等を確保するしくみづくり

コミュニティ活動等の活性化

- ・ NPOやボランティア活動の活性化
- ・ 住民同士の交流、文化活動等の活性化
- ・ 趣味、スポーツ等、幅広く参加できる活動の場づくり

子育て支援と教育の充実

- ・ 地域で母親を支援するしくみづくり
- ・ 小規模校での教育の充実
- ・ 遠距離通学、子供の安全確保

交通手段が限られるため遠隔サービス等による利便性確保が重要になる。

学校の小規模化の影響等をカバーするしくみが必要。

地域住民による様々な活動や交流をサポートするしくみが重要になる。

課題解決に資するICT利活用の基本コンセプト

日常のサービスの提供者と利用者を柔軟につないで、地域の新たな生活基盤を形成する。
住民同士のコミュニケーションや情報共有を容易にして、新しい形のコミュニティ活動を支える。

2-1: 日常生活の基盤の確保

- 商店の減少、公共交通機関の撤退等により、買い物等の生活行動に不便を生じるケースが発生。
- 特に高齢者の生活の足の確保は重要な課題に。

地域の課題の現状

- ◆ 郊外型大型店の出店等による地元商店の減少（買物弱者の増加）
- ◆ 鉄道の廃線（平成17年3月に能登線廃止）、バス路線や本数の縮小による公共交通網の衰退
- ◆ 高度情報通信網の整備遅滞
- ◆ 携帯電話不感地域が存在
- ◆ 上下水道やごみ収集などライフラインの安定維持

【小売業事業所数】（6月1日現在）

	H16年	H19年	3年間増減率
輪島市	577	511	-11.4%
珠洲市	384	359	-6.5%
穴水町	189	161	-14.8%
能登町	411	369	-10.2%
石川県	13,663	12,632	-7.5%

（商業統計より）

地域の取組テーマ

- 通学、通院、買い物のための公共交通ネットワークの形成と維持
- 地元商店の活性化
- 買い物弱者・交通弱者対策、安定した買い物機会の提供
- 高度情報通信網の整備
- 高次道路交通網の整備
- 下水道の普及とごみ処理対策

望まれるICT利活用のイメージ（例）

- バスなど公共交通のリアルタイム運行情報を利用者に提供し、利用者の利便性を高める。
- 乗り合いタクシーやバス乗車の予約機能を提供して、利用者の利便と効率的な運行を両立させる。
- 地域の商店と高齢者宅を結ぶ買い物注文宅配サービスによって、来店困難な高齢者の買い物手段を確保。
- 外出が困難な高齢者や役所が遠い住民等へ、電子行政による24時間行政サービスを提供。

2-2：子育て環境と教育の充実

- 4市町ともに出生数、児童数が減少しており、地域の子育て支援環境整備が課題に。
- 学校の小規模化、統廃合が進み、学校教育の質の確保や遠距離通学対策が課題に。

地域の課題の現状

- ◆ 出生数の低下
- ◆ 児童数の減少、学校の小規模化
- ◆ 学校の統廃合や廃校危機
- ◆ 学校施設の老朽化や耐震対策の遅れ

	出生数			年少人口(0~14歳)		
	H14年	H19年	5年間増減率	H15年	H20年	5年間増減率
輪島市	192	163	-15.1%	3,746	3,117	-16.8%
珠洲市	93	89	-4.3%	2,031	1,639	-19.3%
穴水町	60	47	-21.7%	1,129	956	-15.3%
能登町	112	110	-1.8%	2,559	1,990	-22.2%
石川県	10,954	10,294	-6.0%	170,398	163,102	-4.3%

(石川県の年齢別推計人口より)

地域の取組テーマ

- 地域で子育てを支援する仕組みづくり
- 子育てについての経験や知恵の伝承・共有
- 子ども同士が触れ合う機会の減少による弊害対策（競争心や助け合い精神の高揚など）
- 小規模校での学校行事や部活動、地域における集団活動（スポーツ団や伝統行事等）の維持
- 登下校時の見守り活動の担い手確保

望まれるICT利活用のイメージ（例）

- 子供の現在位置を家族が確認し、登下校時等の子供の安全確認を行う。
- 保育園、幼稚園等のライブカメラ映像で、両親が携帯で子どもの様子を見たり知ることができる。
- 全国の学校や海外の子供とのネット交流、多彩な電子教材利用等で小規模校のハンディを解消する。
- 電子連絡帳を使った子育て情報の提供、子育て相談の受け付け等、母親の子育てを常時支援する。

2-3 : コミュニティ活動等の活性化

- 従来の自治会活動や地域活動は参加者が限られ、活動の停滞も見られる。
- 地域リーダーを育成し、幅広い住民が参加しやすいコミュニティ活動やボランティア活動を形成することが課題になっている。

地域の課題の現状

- ◆ 高齢化による地域活動の担い手不足
- ◆ 少子化に伴う家族間交流機会の減少
- ◆ 世代間交流機会の減少
- ◆ 生活様式の多様化や核家族化、過疎化による地域イベント等への参加者の減少

【珠洲市における地域事業等への参加者数の変化】

	H16年	H20年	増減率
ふれあい講座(出前講座)の年間延べ参加者数	3590人	4522人	26.0%
生涯学習の地元指導者の登録人数	333人	252人	-24.3%
市内スポーツ事業への年間参加者数(対総人口当たり)	17人	13人	-23.5%
市内体育施設の年間利用者数(対総人口当たり)	415人	325人	-21.7%
文化協会活動への年間延べ参加者数	1500人	1300人	-13.3%

(第5次珠洲市総合計画進捗状況より)

地域の取組テーマ

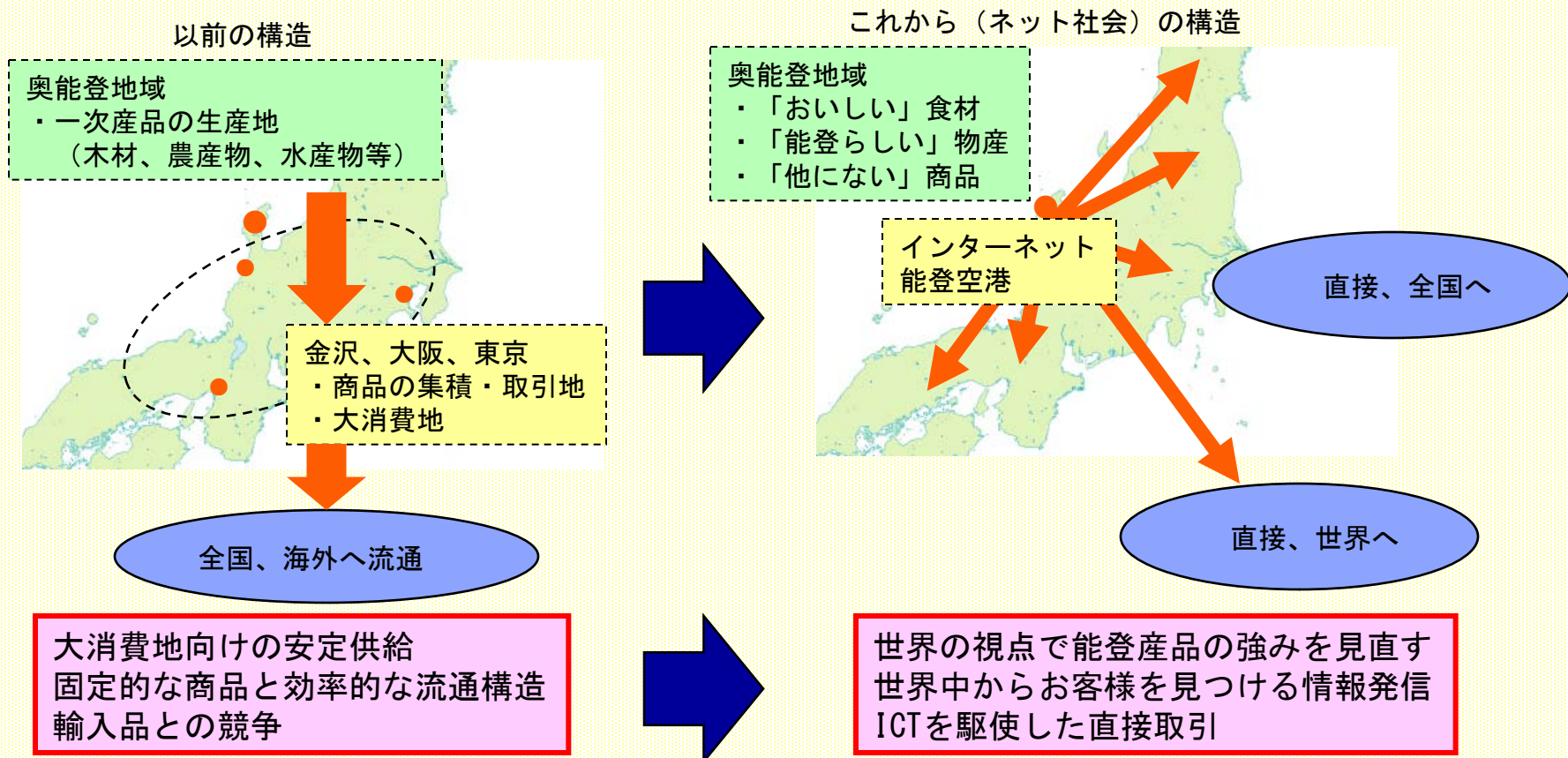
- 少子・高齢社会に対応した新たなコミュニティや地域福祉の仕組みの構築
- 歴史的町並みや自然景観の保全
- 伝統芸能・風習の継承
- 高齢者の社会参加機会の増大
- 高齢者の生きがいづくり
- 元気な高齢者の人材・人脈の活用

望まれるICT利活用のイメージ(例)

- 地域の人々がテレビ会議やSNSで簡単に情報交換や交流を行い、様々な地域活動を展開する。
- お祭りなど地域のイベント情報や映像等を配信して、イベントの参加者、協力者を集める。
- 歴史的・文化的遺産の電子アーカイブ化、eラーニング教材の制作等により、伝統文化の継承を支援する。
- 生涯学習講座を映像記録・配信し、外出が困難な高齢者や遠隔地の住民も受講できるようにする。

課題3 新しい地域産業の育成、展開

- ICT、移動手段の進化等により、グローバル規模で産業・経済構造の大転換が進行。
- 奥能登も例外ではなく、新しい視野・視点で地域産業の立ち位置を考える必要がある。
- 全国、海外への提供を目指した流通の見直し、ブランドづくり、情報発信が課題。



課題解決に資するICT利活用の基本コンセプト

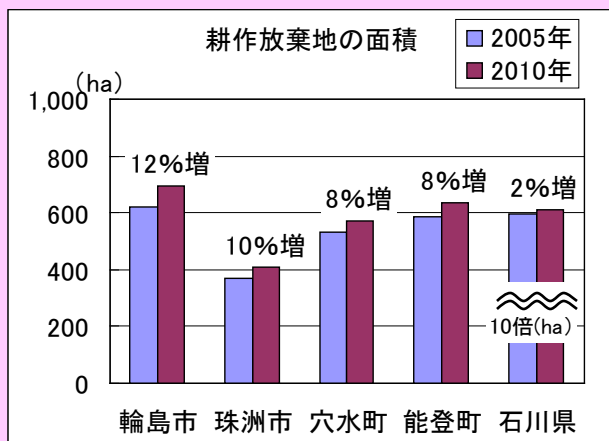
奥能登と全国・世界を直接結び、全国・世界に目を向けた地域産業の展開、新しい産業育成、観光の振興等につながる情報や機能を提供する。

3-1: 農林水産業の新たな展開

- 奥能登は、質の高い一次産品を産出できるものの、一部を除いてブランド力に乏しい。
- 後継者不足のため、産業としての規模が縮小傾向にある。
- 製品の付加価値化と全国・世界に向けた積極的な情報発信により、産業の魅力を高めることが重要。

地域の課題の現状

- ◆ 就業者の高齢化、後継者不足・担い手不足
- ◆ 耕作放棄地の拡大、森林の荒廃、港湾水質の悪化
- ◆ 輸入品の増加と価格低下による収入の減少



地域の取組テーマ

- 地産地消の推進
- ツーリズムやイベント等を活かした観光農業や観光漁業の展開
- 集団化や法人経営による集積化と効率化、省力化の推進
- 新たな特産品の開発、既存産品の品質管理の徹底による地域ブランドの確立
- U・Iターン等による担い手の確保と育成

望まれるICT利活用のイメージ (例)

- 生産者の横顔や生産・収穫状況の映像を配信し、安全・安心・高品質な地産品のイメージアップにつなげる。
- インターネットや放送を利用した通信販売などにより、全国・販路の拡大を図る。
- 農地の耕作状況、市況情報、気象情報などをリアルタイムに伝え、生産や出荷調整等に役立てる。
- GISを用いた農地管理や、インターネットを利用したトレーサビリティ・システムにより効率的な生産につなげる。

3-2: 地域の産業創出、ブランド化

- 奥能登では、新しい商品・サービス開発は行われているものの、情報発信が弱く、次の展開に結びつきにくい。
- 地域起業促進に加えて、対外的なアピールを高める情報発信やブランド化の取組が求められる。

地域の課題の現状

- ◆ 海外との競争や景気の低迷による売上の減少
- ◆ 付加価値の競争力低下、収益率の低下
- ◆ 就業者の高齢化と後継者不足
- ◆ 地理的条件や社会的条件により輸送コストや整備費がかさみ、企業進出が進まない

【製造業の事業所数・従業者数・出荷額の全県に占める割合】

	事業所数	従業者数	製造品出荷額	人口
石川県	100%	100%	100%	100%
輪島市	3.2%	1.6%	0.8%	2.7%
珠洲市	1.6%	1.1%	0.5%	1.4%
穴水町	0.6%	0.4%	0.2%	0.9%
能登町	1.7%	1.2%	0.5%	1.7%

(平成20年 石川県統計書より)

地域の取組テーマ

- 地域独自の自然環境や資源、動植物等を活用した新産業の発掘・育成
- 地域資源を活かした新たな特産品の開発、地域ブランドの確立と販路の拡大
- 地域ブランドの国内・海外における認知度の向上、そのための情報発信
- 元気な高齢者の働く場の創出
- 高齢者の知恵や経験を生かした産業支援
- 能登空港を活用した新たな企業誘致・市場の拡大

望まれるICT利活用のイメージ (例)

- 地場企業、地産品ホームページの多言語化など、海外に向けた積極的な情報発信により販路を拡大する。
- 奥能登のどこからでも受講できるオンライン経営塾等により、地域に起業家マインドを育成する。
- インターネットを活用して、地場企業の新製品・有力製品の共同プロモーションを行う。
- 地域産業を担ってきた高齢者の技能、ノウハウを記録・共有して、新しい特産品開発につなげる。

3-3 : 観光の振興

- 奥能登には様々な観光資源があるが、それらを有効に活用し、観光客を集めるしくみが不十分。
- 観光地としてのアピールを始め、観光客向けの事前情報、現地情報、事後情報の提供が効果的に行われていない。
- 2014年の北陸新幹線開業に向けて、奥能登が一体となった観光情報整備、発信が重要。

地域の課題の現状

- ◆ 観光客は伸び悩みの状況
- ◆ 観光情報サイトは多数あるが、まとまりがなく乱立気味
- ◆ 観光施設の老朽化等、新たな観光の魅力づくりが問われる状況

観光入り込み客数	(単位)	H11年	H16年	H21年
能登地域	千人	7,607	7,705	6,650
(期間増減率)			1.3%	-13.7%
石川県全体	千人	20,851	20,784	20,717
(期間増減率)			-0.3%	-0.3%
能登空港利用者数	人		165,124	150,513
(期間増減率)				-8.8%

(統計からみた石川県の観光より)

地域の取組テーマ

- 四季折々の食材を使った地域食文化の発信
- 類似施設や老朽化施設の統廃合やリニューアルによるイメージアップ
- 地域資源を活用したグリーンツーリズムやエコツーリズムなど新しい旅行のあり方についての提言とその構築
- 近隣市町との連携による広域観光ルートや、観光メニューの創出
- 鉄道に代わる観光客向け交通手段の確保

望まれるICT利活用のイメージ (例)

- 奥能登全体が連携した総合観光資源（食べる・見る・遊ぶ・学ぶ・体験する・泊まる等）の情報発信
- 伝統芸能や風習のアーカイブ化。奥能登ならではの話題づくりにつながる情報発信を行う。
- 来訪した観光客向けに、観光イベント情報、クーポン券等の発行・配信を行い、現地で回遊性を高める。
- バスやタクシー、レンタカー等のリアルタイム運行情報や予約機能提供等により、観光客の利便性を高める。